

くりはらツーリズムネットワーク会報

くりはら時間 14

timezone Kurihara

Kurihara Tourism Network
くりはらツーリズムネットワーク

〒987-2216
宮城県栗原市築館伊豆二丁目6番1号
栗原市市民活動支援センター貸事務室
電話・FAX 0228-23-0050
Email:kurihara.tn@gmail.com



「くりはら博覧会 “らいいん” を秋に開催

くりはらツーリズムネットワークは、10月から始まる「くりはら博覧会 “らいいん”」の開催に向けて準備を進めています。

「くりはら博覧会 “らいいん”」は、体験と交流のプログラムを開催期間内に複数行い、栗原の魅力をお客様に体感してもらいたいイベントです。今回で2回目の開催になります。

前回は、3月3日(水)から27日(日)までの25日間、21のプログラムを実施する予定でしたが、「3.11 東日本大震災」が発生し、途中で中止しました。

それでも、開催できた10プログラムには、延べ113人の方に参加していただきました。

参加者の多くは市内の方でしたが、お隣の登米市や大崎市、さらに仙台や東京などから参加したお客様もいらっしゃいました。

「体験と交流のプログラムで栗原を体感

今回、「くりはら時間」をお客様に体感していただくプログラム数はなんと44！！

農作業体験やまち歩き、トレッキング、料理教室など、会員が、それぞれの特技や生業を發揮した魅力的な“くりはらツーリズム”です。

事業の詳しい内容は、9月1日発行予定の「ガイドブック」とホームページで紹介します。また、『広報くりはら』9月1日発行号でも事業の概要を紹介していただく予定です。



前回の「味噌作り体験」、米麴をみんなでバラバラと

【事業の概要】
 事業名 / くりはら博覧会 “らいいん” 2011
 期間 / 10月1日(木) ~ 11月19日(土) 50日間
 プログラム / 44プログラム(予定)
 申込受付 / 9月1日(木)から

活動報告

2011.6.29~7.26

季節の手仕事を楽しむ

らっきょうの甘酢漬け教室



日時 6月29日(土) 10:00~12:00

場所 この花さくや姫プラザ

主管 くりはら食ツーリズム研究会

参加者 17人

栗駒桜田産の“らっきょう”を使い、下ごしらえから作業しました。

参加者は、それぞれが漬けた「らっきょうの甘酢漬け」約1kgをお持ち帰り。食べ頃は1カ月後から1年位だそうです。楽しみです。

地元産の季節の食材を、ほんのひと手間かけておいしく食べる暮らしの素敵な体験でした。

2011 震災復興イベント

旧奥州街道と有壁本陣を時代散歩しよう!



日時 7月3日(日) 9:30~15:15

場所 奥州街道有壁宿周辺

主管 旧奥州街道有壁宿を時代散歩する実行委員会

参加者 23人

このイベントでは、避難所からの参加者は無料、一般の方からの参加費の一部を災害復興の募金とさせていただきます。

JR東北本線有壁駅を出発し、“奥州街道の刻印入りの杖”をつきながら、十万坂、有壁宿本陣、肘曲がり坂と奥州街道の名所を訪ね、途中地元の方々の料理で昼食をとり、岩手県との県境でゴール。

参加者には、実行委員長の萩野酒造の佐藤社長から甘酒の振る舞いや「有壁宿通行手形」が配られるなどのプレゼントがありました。



この事業は、日本財団 ROAD プロジェクト「東北地方太平洋沖地震災害にかかる支援活動助成」を受けて実施しました。

心のらいんプロジェクト

ブルーベリー摘み取り体験



日時 7月10日(日) 14:00~14:40

場所 多田農園

参加者 30人

南三陸町で被災し、現在は栗原市の避難所で生活している方々を招き、ブルーベリーの摘み取りを体験してもらいました。栗原市が主催した「栗原市まるごとゆったり体験！」のプログラムとして、くりはらツーリズムネットワークが提供したものです。

30℃を超える暑さでしたが、楽しんでいただけたようです。



若柳でグリーン・ツーリズム

そば打ち体験&ブルーベリー摘み取り体験

日時 7月17日(日) 10:00~14:30

場所 有賀の里たかまった、多田農園

主管 有賀の里たかまった 女将 千葉静子
多田農園 多田みさ子

参加者 そば15人、ブルーベリー12人

午前中は「そば打ち体験」。“八割そば”のそば打ちは、初心者でも比較的作りやすいそうです。手順は、粉を混ぜ、こねて、均等な厚さに

切る。この“均等に切る”のが、なかなか難しく、皆さんそれぞれ個性を発揮していました。

でも、自分が打ったそばを食べる様子は、とても楽しそうでした。

午後からは若柳武鎗でブルーベリーの摘み取り体験。2種類の品種を自由に摘み取り、その場で味比べしたり、お土産にしたり。ジャムの作り方も教わりました。

「木から実を直接採って食べる」、当たり前のように、なかなかできない体験でした。



ピザの具は持ち寄り

持産地消 “ピザ作り体験”

日時 7月26日(火) 10:00~13:00

場所 多世代はうす文字倶楽部

主管 多世代はうす文字倶楽部 馬渡達也

参加者 18人(会員)

この事業は、会員が交流する機会をつくるため、馬渡副会長が企画しました。

馬渡副会長の奥さんの綾子さんが、ピザの生地作りから成形を指導。会員がそれぞれ持ち寄

った具材をのせたピザを、馬渡家自慢の大きな石窯で焼き、食べ比べながら交流しました。



Pick UP

「私もかたづけ隊」に参加 石巻市・のんびり村のお手伝い

7月25日(月)・石巻市

みやぎグリーン・ツーリズム推進協議会(MGT)の呼びかけで、東日本大震災で被災した「のんびり村」(坂下健さん、清子さん)のかたづけのお手伝いに会員7人が参加してきました。MGTの渋谷文枝会長をはじめMGT会員や遠く東京からも応援に駆けつけて、泥まみれになった食器の洗浄などをお手伝いしました。



～ その他の活動 ～

7月6日(水) 宮城農業大学校アグリビジネス学部「資源活用基礎」先進事例視察学習受入
受入担当：千葉静子副会長、馬渡副会長兼事務局長、語り手 佐藤玲子
参加者：14人

7月13日(水) 佐藤 勇栗原市長を表敬訪問
内容：活動の紹介と「くりはら博覧会“らいん”」の協力を依頼
訪問者：小野寺敬会長、千葉静子副会長、馬渡達也副会長兼事務局長、スタッフ1人

7月18日(月) フードマーケットフジサキ泉寺岡店で物産販売と物づくり実演
物産販売：2会員(6人) 物づくり実演：2会員(2人) ※1会員は展示のみ

7月21日(木) みやぎグリーン・ツーリズム推進協議会総会
出席者：小野寺敬会長

7月21日(木) 平成23年度栗原農業士会研修会で講演
題名：栗原のグリーン・ツーリズム 講師：馬渡達也副会長兼事務局長
参加者：25人

●●●●● お 知 ら せ ●●●●●

くりはら観光塾&くりはらツーリズムネットワーク勉強会 “Agri Cafe”
農家民宿・レストラン開業支援講座

都市部の子ども達や観光客と触れ合う場所として、地域の人の顔が見え、お話ができる交流の場「農家民宿・農家レストラン」。この講座は、その開業に関心のある方が対象です。くりはら研究所(栗原市田園観光課)と共催で開催します。

みやぎグリーン・ツーリズムアドバイザーをつとめる宮城大学の宮原教授を講師に迎え、秋田県仙北市で活躍する農家民宿の先進事例に学びながら、開業へのヒントを探っていきます。

○日程と内容

回	日時	内 容
第1回	9月2日(金) 19:00~21:00	「暮らしを生かしたツーリズムを発掘しよう」 講師：宮城大学事業構想学部 教授 宮原育子 氏 場所：栗原市市民活動支援センター
第2回	9月27日(火) 19:00~21:00	「農家民宿・レストランの開業とその魅力」 講師：農家民宿 星雪館 門脇富士美 氏 場所：栗原市市民活動支援センター
第3回	11月6日(日) 9:00~17:00	「フィールドワーク」農家民宿・レストラン視察 講師：宮城大学事業構想学部 教授 宮原育子 氏 場所：秋田県仙北市内
第4回	11月25日(金) 19:00~21:00	「できることから表現してみましよう」 講師：宮城大学事業構想学部 教授 宮原育子 氏 場所：栗原市市民活動支援センター

- 対象 開業に関心がある、または開業している栗原市民20人程度
- 参加費 無料(内容に応じて自己負担あり)
- 申込締切 8月31日(水)まで
- 申込先 くりはら研究所(栗原市田園観光課) TEL.0228-22-1151
主催：くりはら研究所・くりはらツーリズムネットワーク

くりはら博覧会 “らいん”
イベント
手前味噌で

しそ巻教室

栗原の郷土料理の一つ「しそ巻き」作りを体験します。

栗駒文字で作った自慢の味噌を使います。作ったしそ巻きは、お土産にお持ち帰りできます。

○日時

9月10日(土)
10:00~12:00

○場所

栗原市栗駒
文字深渡戸 30

○定員 20人

○参加費 1,500円

○申込締切

9月6日(火)まで

○申込先

くりはらツーリズム
ネットワーク
TEL.0228-23-0050

主催：くりはらツーリズム
ネットワーク
主管：もんじ加工組合

くりはら旧町村名を



第4記 「高清水の由来」

もとは「高泉」と書いて「たかしみず」と呼ばれていたそうです。由来は読んで字のごとく、「高地に泉の湧く地」から名付けられたといわれています。

高清水には、古くから「七清水」と呼ばれる水場があるということで、実際に行ってみると、

現在では、ほとんどが跡地となっていました。「桂葉清水」と呼ばれる名水百選に選ばれた有名な水場だけが少しだけ湧いていて、澄んだ水がありました。

七清水で最も高台にある「清水権現清水」(跡地)は、かつて神社があり、その境内に水が湧いていたそうです。「清水権現清水」を訳すと「水の神様の清水」という意味で相当歴史の古いものようです。

その昔、この辺りでは井戸を掘ることが禁じられていて、住民が水を汲んだり、旅人が休憩したりと、「七清水」が生活の中心であり交流の場であったのだと思いきふことができます。

次回は花山の由来を調べTENします！
(事務局広報宣伝部・千葉 秀知)